

コンサートをお楽しみいただくために

携帯電話の電源を
お切りください。



マナーモードでも、作動しますと近くの方が気になる場合がございます。その他にも、アラーム付き腕時計など、音が鳴らないようご配慮ください。

Before the performance, you must not forget to turn off your mobile phone. Even when it is set on silent mode, if it vibrates it may disturb people around you. Please also make sure that your wristwatch alarm, and any other electronic devices, do not make any noise.

補聴器のご利用には
ご注意ください。



補聴器を正しく装着されていない場合、音を発する場合がございます。音漏れがないよう、しっかりと装着し、適切な音量に調整をお願いいたします。

For our guests who use a hearing aid, please insert the device carefully. If you do not do so properly, it may emit a noise. Please check that it is firmly attached and set at a suitable volume.



九州交響楽団は、上記のマナーアップに取り組んでいます。

皆様のご協力をお願い申し上げます。

The Kyushu Symphony Orchestra is endeavouring to raise awareness of good manners, such as those we have outlined above, in order to enhance the concert experience for everyone.

Thank you in advance for your understanding and compliance.

撮影、録音は
お断りいたします。



開演中の写真撮影、録音、録画は堅くお断りいたします。

No photography, filming and recording are allowed. All use of cameras and recording equipment is strictly forbidden throughout the performance.

演奏は
最後の余韻まで
お楽しみください。



多くの演奏家は、最後の一音の余韻が消えるまで集中を保っています。一瞬の静寂の後の怒濤の拍手は、感動を何倍にも味わえます。拍手や「ブラー」の掛け声などのタイミングには、お心遣いをいただきまますよう、お願いします。

※感染予防対策のため、現時点では、ブラー等の声援は控えていただけようお願いしております。

Please enjoy the entire performance until the last lingering sound fades out. Most musicians playing in an orchestra maintain high concentration until that point. Your loud applause after a moment of silence will contribute towards a much more impressive ending to the performance, for everyone concerned. Bearing this in mind, please take care to choose the right timing to applaud and cheer (for example, "Bravo!").

第407回 定期演奏会

The 407th Subscription Concert

マーラーここに極まる 小泉=九響「復活」



10月7日(金)開演:午後7時

7th Oct.(Fri.), 2022 19:00

10月8日(土)開演:午後3時

8th Oct.(Sat.) 2022 15:00

アクロス福岡シンフォニーホール
ACROS Fukuoka Symphony Hall

指揮 小泉和裕

Conductor : Kazuhiro Koizumi

ソプラノ 安井陽子

Soprano : Yoko Yasui

アルト 福原寿美枝

Alto : Sumie Fukuhara

合唱 九響合唱団、九州大学男声合唱団コールアカデミー、久留米大学附設高等学校合唱部、
多目的混声合唱団“Chor Solfa!”、ちくしの混声合唱団、ほか

Chorus : The Kyushu Symphony Choir, Kyushu University “Chor Akademie”,
Kurume University Senior High School Chorus, Chor Solfa!,
Chikushino Mixed Chorus, etc.

合唱指揮 横田 諭

Chorus Conductor : Satoshi Yokota

コンサートマスター 扇谷泰朋

Concertmaster : Yasutomo Ogitani

ゲスト・マーラー

Gustav Mahler

交響曲 第2番 ハ短調「復活」

Symphony No.2 in C Minor “Auferstehung”

- I . Allegro maestoso. Mit durchaus ernstem und feierlichem Ausdruck
- II. Andante moderato. Sehr gemächlich. Nie eilen
- III. In ruhig fließender Bewegung
- IV. “Urlicht”: Sehr feierlich aber schlicht. Nicht schleppen
- V. Im Tempo des Scherzos. Wild herausfahrend
— Wieder zurückhaltend — Langsam. Misterioso

※本公演は休憩はございません

※7日の公演はライブ配信(有料)を行います。詳しくはP.32「事務局からのお知らせ」をご覧ください。

ご来場のお客様へ

新型コロナウイルス感染予防対策のため、

ロビー・コンサート及び終演後の楽団員によるお見送りはいたしません。

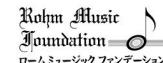
※〈プログラムノート〉はP.12～P.16をご覧ください。

主催／(公財)九州交響楽団・(公財)アクロス福岡

協賛／椎木正和

助成／文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会
福岡県・福岡市・(公財)アフィニス文化財団・(公財)ローム ミュージック ファンデーション

後援／福岡県・福岡市・(公財)福岡市文化芸術振興財団・NHK福岡放送局・(公財)九州文化協会・福岡文化連盟
九響後援会



指揮
九州交響楽団音楽監督 小泉和裕

Conductor
Kazuhiro Koizumi

京都生まれ。東京芸術大学指揮科にて山田一雄氏に師事。1970年第2回民音指揮者コンクール第1位受賞。1973年第3回カラヤン国際指揮者コンクールに第1位入賞。これまでにベルリン・フィル、ウィーン・フィル、ミュンヘン・フィル、バイエルン放送響、フランス国立放送管、シカゴ響、ボストン響、モンツリオール響など世界の主要オーケストラに客演、ルービンシュタイン、ロストロポーヴィチ等世界の優れたアーティストと共に演、欧米各地において精力的な指揮活動を行った。

これまでに新日本フィル音楽監督、カナダ・ウィニペグ響音楽監督、都響レジデント・コンダクター、九響首席指揮者、日本センチュリー響音楽監督、仙台フィル首席客演指揮者などを歴任。

現在、九響音楽監督、東京都響終身名誉指揮者、名古屋フィル音楽監督、神奈川フィル特別客演指揮者。21年12月、自身の半生をつづった『邂逅の紡ぐハーモニー』が中経マイウェイ新書から出版された。



©Ivan Malý

Born in Kyoto. Kazuhiro Koizumi studied at Tokyo University of the Arts under Kazuo Yamada and at Universität der Künste Berlin under Prof. Hans Martin Rabenstein. After winning the 1st prize at Karajan International Conducting Competition in 1973, he has appeared with Berlin Philharmonic, Vienna Philharmonic, Munich Philharmonic, Orchestre philharmonique de Radio France, Royal Philharmonic, Chicago Symphony, Boston Symphony, Montreal Symphony among others. Currently, he serves as Music Director of Kyushu Symphony Orchestra, Honorary Conductor for Life of Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra, Music Director of Nagoya Philharmonic Orchestra, and Special Guest Conductor of Kanagawa Philharmonic Orchestra.

ソプラノ 安井陽子

Soprano
Yoko Yasui

桐朋学園大学卒業。同大学研究科を経て二期会オペラ研修所マスタークラス修了後、文化庁在外研修員として渡澳し、ウィーン国立音楽大学研究課程修了。在澳中、クラーゲンフルト市立劇場にてヘンツェ『若き貴族』イーダで欧州デビュー。その後、フォアアルベルク音楽劇場にて『魔笛』夜の女王を、ブレゲンツ音楽祭及びザンクト・ペルテン音楽祭にてオッフェンバッハ『青ひげ公』ロザリンデ等を演じ、現地新聞評で高い評価を得た。帰国後の2008年、二期会『ナクソス島のアリアドネ』ツエルビネットで本格的に国内デビューを飾り、卓越したテクニックと豊かな表現力で脚光を浴びる。その後も新国立劇場『ファルスタッフ』ナンネット、『ホフマン物語』オランピア、日生劇場『フィデリオ』マルツェリーネ等に出演。とりわけ『魔笛』夜の女王は、新国立劇場をはじめ日生劇場、二期会等様々な舞台で演じ高い評価を得ている。

コンサートでも、主要オーケストラや著名指揮者らと、オルフ「カルミナ・ブラーナ」、マーラー「復活」「交響曲第4番」、ブラームス「ドイツレクイエム」等で共演している。2022年は新国立劇場『ばらの騎士』ゾフィー、『魔笛』夜の女王に出演した。二期会会員。



Yoko Yasui graduated from the Graduated Toho Gakuen School of Music. With a scholarship from Agency for Cultural Affairs Japan, she studied in Vienna and graduated Universität für Musik und darstellende Kunst Wien. She made European debut as Ida in Henze's Der junge Lord at Stadttheater Klagenfurt, Queen of the Night at Musiktheater Vorarlberg. In Japan, She sung Zerbinetta in Ariadne auf Naxos, Olympia in Les Contes d'Hoffmann (Tokyo Nikikai Opera Theatre), Queen of the Night in Die Zauberflöte, Sophie von Faninal in Der Rosenkavalier (New National Theatre Tokyo), Marzelline in Fidelio (Nissay Theatre). She also sung as soloist Messiah, Beethoven's 9th symphony and Carmina Burana. A member of Nikikai.

アルト 福原寿美枝

Alto
Sumie Fukuhara

京都市立芸術大学卒業、同大学院修了。音楽学部賞受賞。《カルメン》《アイーダ》《ドン・カルロ》《タンホイザー》《トリスタンとイゾルデ》《ナクソス島のアリアドネ》《古事記》をはじめ、イタリアピサ歌劇場にてヒンデミット《聖スザンナ》《修道女アンジェリカ》等、国内外のオペラに出演。

オーケストラとの共演では、NHK交響楽団とのモーツアルト「レクイエム」、大阪交響楽団とのヴェルディ「レクイエム」、ブームス「アルト・ラブソディ」、大阪フィルハーモニー交響楽団とのバッハ「ヨハネ受難曲」「マタイ受難曲」に出演、また関西フィルハーモニー管弦楽団とマーラー「交響曲第2番(復活)」、名古屋フィルハーモニー交響楽団とマーラー「交響曲第3番」「交響曲第8番(千人の交響曲)」、プロコフィエフ「アレクサンドル・ネフスキー」、札幌交響楽団とマーラー「交響曲第4番」、神奈川フィルハーモニー管弦楽団とバーンスタイン「交響曲第1番エレミア」等、数多くの演奏活動を行っている。

平成25年度神戸市文化奨励賞、2015年度音楽クリティック・クラブ賞受賞。関西二期会会員。武庫川女子大学音楽学部教授、京都市立芸術大学非常勤講師。



Sumie Fukuhara took a bachelor's degree and a master's degree from Kyoto City University of Arts, and got the music award upon graduation. She received a favorable reception after many pieces, ---W.A. Mozart "Requiem" with NHK Symphony Orchestra, J.S. Bach "Johannes-Passion" "Matthäus-Passion" with the Osaka Philharmonic Orchestra, G.Mahler "Symphony No. 2 'Resurrection'" with Kansai Philharmonic Orchestra, "Symphony No. 3" and "Symphony No. 8 'Symphony of a Thousand'" with Nagoya Philharmonic Orchestra, and many roles in operas at home and abroad. She won Kobe Cultural Encouragement Award, Music Critic Club Prize, and now she is a regular member of Kansai Nikikai, a professor in Mukogawa Women's University and, a contract teacher in Kyoto City University of Arts.

合唱 九響合唱団

Chorus

The Kyushu Symphony Choir

九響合唱団は、九州交響楽団の永久名誉音楽監督・故石丸寛氏の提唱により、九響と合唱付きの楽曲を共演する専属合唱団として1996年1月に発足した。合唱指揮は、初代 三浦宣明の後を承け、2013年から横田諭が務めている。合唱団のさらなる成長を目指し、2018年に声楽家の八木寿子をヴォイストレーナーに迎えた。九響の定期演奏会、「第九」公演やニューアイヤーコンサートのほか、天神地下街「てんちかコンサート」、熊本県芸術文化祭オープニングステージや熊本地震復興祈念演奏会等の各地の公演へも積極的に出演し、九州の音楽文化の発展を支える合唱団としての役割を果たすべく、日々研鑽を積み重ねている。

合唱指揮 横田 諭

Chorus Conductor

Satoshi Yokota

福岡出身。1980年九州大学理学部入学、同大学院修士・博士課程進学。在学中に九州大学男声合唱団コールアカデミーに所属し、学生指揮者を務め、作曲家の藤井凡大氏、指揮者の荒谷俊治氏(前日本指揮者協会会长)より音楽のみならず幅広い分野での指導を受ける。また石丸寛氏主催の石丸指揮塾に参加。現在、九響合唱団指揮者の他、九州大学男声合唱団コールアカデミー常任指揮者、福岡コール・フェライン指揮者、多目的混声合唱団“Chor Solfa!”指揮者、女声合唱団コール・エスパワール常任指揮者、ちくしの混声合唱団指揮者を務める。

The Kyushu Symphony Choir (KSC) was founded as a belonging chorus of The Kyushu Symphony Orchestra (KSO) by proposal of the late Mr. Hiroshi Ishimaru who is an eternal honor music director of KSO in January, 1996. The first chorus conductor was Mr. Noriaki Miura, and currently Mr. Satoshi Yokota leads KSC from 2013. To further progress, invited Ms. Hisako Yagi as voice trainer in 2018. In addition to Subscription Concert of KSO, actively singing in various places of Kyushu, and responsible for the development of music culture in Kyushu.

九響合唱団

【ソプラノ】	羽野恵美	古賀友里子	【テノール】	柴田夏樹
石橋佳恵	林 真実	堺 亜希子	緒方良知	高井和彦
岩田純子	福崎美桜	杉本京子	北川博英	長 忠信
岩谷ひろみ	藤本潤子	道城美羽	田中雅美	中村信一郎
上野玲子	森本祐子	土岐由美子	早川雅國	夏秋正信
岡本寛子	米村 香	永堀寿美子	宮原 淳	原田 研
河崎恵子		西 元子	宮元展義	水野 宏
権丈敦子	【アルト】	橋本早希	山口 聰	村山 曜
幸田さつき	秋枝寿栄	坂東愛美	脇田信一	森時達行
古賀実和子	穴井真弓	稗田和代		吉田憲次
鷺山洋子	石川 彩	平井典子	【バス】	吉永文浩
高橋由美	石橋美和	弘島純子	石川久史	
竹内美祝	伊藤華絵	戸次芳子	岡村 聰	
田中智弥子	牛込貴美子	丸田佳奈子	小山 司	
中山美智子	大森佳代子	村上真理	川棚 直	
成田希久子	岡村文重	吉武志寿子	國分健治	
西村五月	河原新奈		篠崎和弘	

指揮:横田 諭 ヴォイストレーナー:八木寿子

代表 兼 インスペクター代行:篠崎和弘

パートリーダー:ソプラノ/中山美智子、米村 香 アルト/堺 亜希子、道城美羽

テノール/緒方良知 バス/森時達行

ピアノ:岡本えり、大城綾子

※本公演への出演に関わらず、九響合唱団の全団員を掲載しています。

RKB女声合唱団

九州大学男声合唱団コールアカデミー

【アルト】	【テノール】	【バス】	住田寛樹
内野美保子	大石竜太郎	尾前賢二	瀬戸山功平
小田智子	小西遼弥	喜多見和希	戸島浩之
香月ハルカ	宮川道嵩	新屋賢尚	

九大混声合唱団

【アルト】	内門 洸
-------	------

久留米大学附設高等学校合唱部

【ソプラノ】	【アルト】	【テノール】	【バス】
秋吉里佳	板阪莉奈	青木知博	愛甲誠人
木村天音	上山愛未	川内丸凪	生雲弘恭
辻 采音	北野理子	林 洋希	永長久喜
松尾柚芭	桑原佑奈	諸富孝尚	岡 央大
森千歌子			兼行孝幸
森 涼華			古賀奏音
			當房煌騎
			八谷知拓

多目的混声合唱団"Chor Solfa!"

【ソプラノ】	【アルト】	【テノール】	【バス】
尾前知代	五十嵐香代子	森田伸一	宮本 聰
工藤純子	伊黒由佳		
長田栄子	大井裕子		
乗峯智子	疋田弥紅		
山本直子			

ちくしの混声合唱団

【ソプラノ】	【アルト】	【テノール】	【バス】
尾花和美	伊東麻里	川原孝行	霧島 豊
小嶋隆代	林 邦子	萬代 徹	
錢花美佐代	目野弘子	廣澤稔彦	
鳥居浩美		宮野祐輔	

アクロス福岡公募メンバー

【アルト】	【テノール】	【バス】
大熊雅子	荒木良吾	宮田王惠
木下みなみ		

有志

【アルト】	【バス】
富永育代	鈴田伊知郎

※RKB女声合唱団、九州大学男声合唱団コールアカデミー、多目的混声合唱団"Chor Solfa!"、ちくしの混声合唱団は、九州交響楽団公認の九響合唱団オフィシャルパートナーです。

九響合唱団
団員募集中

一緒に歌いましょう♪ 詳しくはこちらへ⇒



10.7 金 10.8 土 第407回 定期演奏会

堀 朋平(音楽学、国立音楽大学講師)

グスタフ・マーラー(1860-1911)

交響曲 第2番「復活」

それまで当たり前だったものが奪われ、消えてゆく——。

この数年のあいだで、死や喪失は私たちにすいぶん馴染みとなってしまった。西洋の思想によれば、しかし喪失はすでに再生をはらんでいる。埋葬されてよみがえったイエス＝キリストがふたたびこの世にあらわれるとき、ひとびとは永遠の命を得るという「復活」——ドイツ語で *Auferstehung* ——の教えがあるからだ。この考えに強くひかれ、きわめて独自なやりかたでこれを温め、ついに大作へと結晶させた男がいる。グスタフ・マーラー。かつての秩序が崩れていく時代にあって、死後の世界をまっすぐに見つめ、使い古された音と思想に新たな息吹を与えたひとだ。

“死と復活”をめぐるその物語に、今こそ耳を傾けよう。

“死の交響曲”的誕生

新旧うずまく世纪末ウィーンには、近代の合理主義にあらがって宗教と神秘を見つめなおす潮流がさかんだった。このサークルで19歳のマーラーがとりわけ惹かれた友人、それが4歳上のジークフリート・リーピナー(1856~1911年)。同時代のニーチェに影響を受け、「悲劇による死こそがわれらを不死なる神々にしてくれる」と説いた哲学徒である。詩集『解き放たれたプロメテウス』(1876年)は、神にあらがい、苦しむことで陶酔的な自由を手にする英雄をめぐるもの。その表紙には、新約聖書のこんな一節がかかけられている。「おまえが撒くものは、死ななければ命を得ない」(『コリストの信徒への手紙(一)』15・36)。のちにマーラーの終楽章を支えることになる一句である(☞17ページの対訳「復活」第2連)。



ジークフリート・リーピナー

リーピナーはその後、ポーランドの詩人アダム・ミツキエヴィチトーランツァイマー(1798~1855年)の作品を翻訳する。タイトルは『葬礼(Todenfeier)』(全4部、1887年)。当初マーラーが第1楽章に与えたタイトルそのものである(ただし最終的には削除された)。その第4部では、かつてマリアに恋した男グスタフ(!)が「死体のような」姿でもどってきて、おなじ失恋をくりかえして自らの刃で命を絶つ。

そう。グスタフ・マーラーも恋多き人——いや、尋常でない情熱家であった。1885年には「熱いナイフ」でみずからの胸をえぐる歌曲集『さすらう若人の歌』を失恋相手にささげる。3年後、駆け落ち寸前までいった女性マリオン・ヴェーバーと別れるときには、花輪をまいた自室に「死人になったつもりで」横たわって友人を嘆然とさせた。ほかならぬ第1楽章『葬礼』を作曲しているさなかのこと。

復活の交響曲は“死”から生まれたのだ。

復活へ

死の交響詩はその後、長い歳月をかけて変容をとげる。1888~91年のあいつぐ転任(ライプツィヒ→ブダペスト→ハンブルク)や、妹と母をつづけざまに亡くす喪失(1889年)をこうむったマーラーは、ドイツの民謡集『少年の魔法の角笛』にひかれ、《角笛歌曲集》の作曲にとりくんだ。ふつうの因果関係をこえた「おとぎ話」の世界によって、交響曲に“活”を入れようとしたのである。こうして、魚へのむなしい説教をうたう民謡に基づく——この上なく虚無的な——第3楽章が生まれ(1893年)、子供と天使の出会いによってフィナーレに橋渡しをする第4楽章も着想された。

フィナーレの決定的なインスピレーションとなったのは、恩師ハンス・フォン・ビューローの葬儀である(1894年)。18世紀の宗教詩人クロップシュトックのコラール「よみがえるのだ…」が教会に鳴り響くのを聴いたとき、この詩をみずから改作することで「死」の物語を「復活」でとじる決意が固まったという。なおマーラーは、自作に耳なじみのない人たちに向けた「道しるべ」として全楽章に解説をほどこしている(1896年、1901年)。それらの解説やスケッチに記された言

葉をたよりに、長大な物語をたどってみよう。

第1楽章 死と平安をないまぜにした、きわめて特異な楽章。「まだこの世に囚われている英雄的人間が、たえず打ち負かされながらも生と運命にいどみかかる巨人的闘争、そして死」。はっきり“死”的すごみで迫ってくる第1主題に対して、第2主題では“平安”をしめす最重要モチーフがあらわれる【譜例1】。



譜例1:第1楽章(48小節～)“平安”的動機

のちにこれは「海の静寂」(スケッチより)となって広がり、終楽章のラスト近くでは「復活」の語をはっきり彩ることになる【譜例2】。



譜例2:第5楽章(696小節～)「生きるために、私は死ぬ!」——“復活”的動機

驚くべきことに、このモチーフは第1主題から生まれたものである。つまり死は安らぎをはらんでいるのだ。真ん中あたりに響く金管【譜例3】はグレゴリオ聖歌「怒りの日」の引用であり、終楽章では「最後の審判」を告げ知らせる。きわめて重要なのはここにもすでに“復活”的モチーフがはらまっている事実(詳しくは、九響「目からウロコ!?のクラシック」解説動画をご覧ください)。



譜例3:第1楽章(270小節～)“最後の審判”的動機

第2楽章 「死者の、生前における至福の瞬間」。第1楽章とのコントラストが鋭すぎるという理由で、マーラーは演奏前に長い一休みを必要とした(それゆえ、ここで合唱団を入れる指揮者も多い)。対照的な中間部はやがて嵐のように吹き荒れる。そう、“至福”と“死”

はコインの裏表である。さながら葬送行進曲のようであり、みずから死後の身体が寸断されて浮かんでいるのを聴くかのような痛切な楽章だ。

第3楽章 《角笛歌曲集》に収められた〈魚に説教するパドヴァの聖アントニウス〉の器楽版であり、テーマは生そのものの無意味。「自分と神への絶望」に駆られて「拷問にかけられた魂の恐怖の叫び」で閉じられる。

第4楽章 《角笛歌曲集》から〈原光〉の転用であるが、堅固なモチーフ操作によって交響曲の物語にがっちり組み込まれている。「人は大いなる苦悩にある」の旋律【譜例4】は“平安”【譜例1】の縮小形であるとともに、第2楽章の冒頭主題そのものだ。ひるがえってみると、つまり第2楽章の「至福の瞬間」は「大いなる苦悩」をもはらんでいたことになる。わが音楽は自然のように汲みつくしがたい——自身がそう語ったとおり、モチーフが複数の意味を担うことで生じる深みに、マーラーの音楽の絶大な力がやどる。



譜例4:第4楽章(13小節～)「人は大いなる苦悩に晒されている!」——“苦悩／平安”的動機

アルト歌手は、天使に拒まれても天へむかう「子供の無垢」をうたう。「広い道にでた」ところで7回鳴るグロッケンシュピールに耳をすませたい。

第5楽章 「最後の日の恐怖」「地震が大地を走る」「死の鳥」、そして「黙示録の世界を告げるトランペット」(舞台裏から吹奏)といった言葉がならぶが、これはたんなる恐怖の音楽ではない。前半にも復活のモチーフ【譜例1】がたくさん現れるばかりでなく、生命の躍動をあらわすフレーズも満ちているからだ。また冒頭まもないホルンのテーマは、自筆譜では「荒野に呼ばわる声」と名づけられている【次ページの図】。その出典となる旧約聖書(『イザヤ書』40・3)は、新約時代には救世主の到来の予言として読まれてきた箇所

にほかならない。自分の歩みをイエスの受難に重ねたこともあるマーラーは、キリスト教の救済思想をもとに独自の神学を作りあげたのだ。最後には、音程もリズムも定まらぬ大きな鐘(グロッケン)が鳴り響いて復活を告げる。



マーラー『復活』自筆譜より第5楽章(40小節～)。
「荒野に呼ばわる声(Der Rufer in der Wüste)」の書き込みがある。

かくして6年の歳月を経て、楽章をこえた驚くべき稠密さで“死と復活”的物語が編みあげられた。最後にわきあがる合唱「よみがえるのだ」は、全楽章をとおして、私たちの心にひそかに響いていたのである。「見よ、もう審判はない。罪人も、義しき者も偉大な者も、卑小な者もいない。罪も報いもないのだ!」——ラストについてそう語るマーラーは、もはや宗教も国境もこえて、この音楽を聴くすべての人に救済を約束している。

作曲／1888～1894年 初演／全楽章の初演は1895年12月13日ベルリン、作曲者の指揮
編成／フルート4(ピッコロ持ち替え)、オーボエ4(イングリッシュ・ホルン持ち替え)、クラリネット3(バス・クラリネット持ち替え)、E♭管クラリネット2、ファゴット4(コントラファゴット持ち替え)、
ホルン10(うち舞台外に4)、トランペット6(+舞台外に4)、トロンボーン4、バス・デューバー、ティンパニ2、大太鼓、ルーテ、合わせシンバル、吊るしシンバル、小太鼓、トライアングル、グロッケン、
シビール、タムタム2、鐘、ハープ2、オルガン、弦5部、ソプラノ独唱、アルト独唱、混声4部合唱、
舞台裏(ホルン4、トランペット4、ティンパニ、大太鼓、シンバル、トライアングル)
使用楽譜／ユニヴァーサル

※編成は演奏の都合上、異なる場合がございます。ご了承ください。

グスタフ・マーラー／交響曲 第2番「復活」

Gustav Mahler／Symphony No.2 in C Minor “Auferstehung”

4. Urlicht

O Röschen rot!
Der Mensch liegt in größter Not!
Der Mensch liegt in größter Pein!
Je lieber möcht' ich im Himmel sein!
Da kam ich auf einem breiten Weg;
Da kam ein Engelein und wollt' mich abweisen.
Ach nein! ich ließ mich nicht abweisen:
Ich bin von Gott und will wieder zu Gott!
Der liebe Gott wird mir ein Lichtchen geben,
Wird leuchten mir bis in das ewig selig' Leben!

5. Auferstehung

Aufersteh'n, ja, aufersteh'n wirst du,
Mein Staub, nach kurzer Ruh!
Unsterblich Leben
Wird der dich rief, dir geben!

Wieder aufzblüh'n wirst du gesät!

Der Herr der Ernte geht

Und sammelt Garben,

Uns ein, die starben.

[アルト]

O glaube, mein Herz, o glaube:
Es geht dir nichts verloren!
Dein ist, ja dein, was du gesehnt,
Dein, was du geliebt, was du gestritten!

[ソプラノ]

O glaube: Du wardst nicht umsonst geboren!
Hast nicht umsonst gelebt, gelitten!

第4樂章 原光

おお、赤い薔薇よ!
人は おおいなる苦惱に晒されている。
人は おおいなる痛みに晒されている。
いっそ天国にいたいものだ!
ひろい道についたけれど
天使がやってきて、私を追い返そうとした。
いやだ! 追い返されたくない、
神から生まれた私は、神のみもとへ戻るのだから!
いといし神さまは ひとすじの光を与えてくださるでしょう
私の照らしてくださるでしょう、永遠の幸せな命を得るまで!
(『少年の魔法の角笛』より)

第5樂章 復活

そう、そなたは よみがえるだろう、
わが塵となりし体よ、ひとときの休息のあとで!
不死なる命が
そなたを呼ばわる者から 与えられよう!

ふたたび咲くために おまえは撒かれる!

収穫をつかさどる主が やがて行き

拾い集め、束ねられるのだ、

死せるわれらを。

信ぜよ、わが心、
おまえは 何も喪わない!

おまえのものだ、かつておまえが憧れ、
愛し、闘ったものは!

信ぜよ、そなたは故なく生まれたのではない
故なくして生き、苦しんだのではない!

[合唱&アルト]

Was entstanden ist, das muß vergehen!

Was vergangen, auferstehen!

Hör' auf zu beb'en!

Bereite dich zu leben!

[ソプラノ&アルト]

O Schmerz! Du Alldurchdringer!

Dir bin ich entrungen.

O Tod! Du Allbezwinger!

Nun bist du bezwungen!

[&合唱]

Mit Flügeln, die ich mir errungen,

In heißem Liebesstreben

Werd ich entschweben

Zum Licht, zu dem kein Aug' gedrungen!

[合唱]

Sterben werd' ich, um zu leben!

Aufersteh'n, ja aufersteh'n wirst du,

Mein Herz, in einem Nu!

Was du geschlagen,

Zu Gott wird es dich tragen!

生まれたものは、のこらず滅び去る

しかし滅び去ったものは、よみがえる！

憚くのをやめなさい

生きる 備えをするのです！

痛みよ、すべてを刺しつらぬくもの！

私は おまえから逃れたのだ。

死よ、すべてを制圧するもの！

いまや おまえは制圧された！

[&合唱]

勝ちとった翼にのって

熱き愛のこがれのうちに

ただよい 流れてゆこう

かつて誰も見つめたことのない 光のほうへ！

[合唱]

生きるために、私は死ぬ！

そう、おまえはよみがえるのだ！

わが心よ、一瞬のうちに！

おまえが克服したもの、

それこそが おまえを神のみもとへ導くだろう！

訳：堀 朋平

第5楽章の冒頭2連は、フリードリヒ・クロップシュトック(1824-1803年)の詩「復活Die Auferstehung」(全5連)冒頭2連にマーラーが改変をほどこしたもの。それ以降はマーラー作詞。テクストはおもにG.キャプラン編の新版(2010年)にもとづく。(訳者付記)

10/29

天神でクラシック 音楽プロムナード Vol.47

Classic at Tenjin, Music Promenade Vol.47

きらめく音世界 フランス音楽の粹

10月29日(土)開演:午後3時

29th Oct.(Sat.), 2022 15:00

FFGホール
FFG Hall

指揮 大友直人

Conductor : Naoto Otomo

フルート 大村友樹

Flute : Yuki Omura

コンサートマスター 扇谷泰朋

Concertmaster : Yasutomo Ogitani

エリック・サティ(ドビュッシー編)

Eric Satie(Debussy arr.)

ジムノペディ 第1番・第3番

Gymnopédies No.1, No.3

ジャック・イベル

Jacques Ibert

フルート協奏曲

Flute Concerto

I . Allegro

II . Andante

III . Allegro scherzando

(休憩) intermission

クロード・ドビュッシー(H.ビュッセル編)

Claude Debussy(H.Büsser arr.)

小組曲

Petite suite

1. 小舟にて En Bateau

2. 行列 Cortège

3. メヌエット Menuet

4. バレエ Ballet

モーリス・ラヴェル

Maurice Ravel

組曲「マ・メール・ロワ」

"Ma mère l'Oye" suite

1. 眠れる森の美女のパヴァーヌ Pavane de la Belle au bois dormant

2. 親指小僧 Petit Poucet

3. パゴダの女王レドロネット Laideronnette, impératrice des pagodes

4. 美女と野獣の対話 Les entretiens de la belle et de la Bête

5. 妖精の園 Le jardin féerique

ご来場のお客様へ

新型コロナウイルス感染予防対策のため、終演後の楽団員によるお見送りはいたしません。

主催／(公財)九州交響楽団

共催／西日本新聞社

助成／文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

福岡県・福岡市

後援／福岡県・福岡市・(公財)福岡市文化芸術振興財団・アンスティチュ・フランス日本

NHK福岡放送局・(公財)九州文化協会

福岡文化連盟・九響後援会

